

## 2014年度大学院キャリアパス形成支援のためのアンケート調査（調査結果）

### 1. 調査の概要

#### （1）調査目的

- ・大学院キャリアパス推進室が実施するセミナー等の基礎データとして活用する

#### （2）調査項目

- ・研究活動に対するモチベーション
- ・経済状況と奨学金の認知度
- ・キャリア観

#### （3）調査対象

- ・全大学院生 2735人

#### （4）調査時期

- ・2014年9月16日(火)～2014年11月14日(金)

#### （5）調査方法

- ・スマートアンケート（WEB）

#### （6）回収結果

- ・307人

## 2. アンケート回収状況

### (1) 全体回答件数 307 件

【図表1 アンケート回答件数】

	前期 修士	後期	一貫制	専門職	博士	総計	在籍 者数	回答率	昨年度回 答数	昨年度 回答率
法学研究科	7	0	—	—	—	7	63	11.1%	5	7.8%
経済学研究科	16	2	—	—	—	18	70	25.7%	14	14.2%
経営学研究科	5	0	—	—	—	5	69	7.2%	4	5.4%
社会学研究科	8	10	—	—	—	18	99	18.1%	8	8.2%
国際関係研究科	14	9	—	—	—	23	110	20.9%	9	7.8%
政策科学研究科	8	4	—	—	—	12	56	21.4%	4	5.7%
公務研究科	4	—	—	—	—	4	51	7.8%	3	3.9%
文学研究科	10	9	—	—	—	19	196	9.6%	17	8.9%
理工学研究科	40	9	—	—	—	49	758	6.4%	35	4.2%
情報理工学研究科	38	2	—	—	—	40	332	12.0%	13	4.1%
生命科学研究科	31	6	—	—	—	37	226	16.3%	19	8.9%
薬学研究科	—	—	—	—	1	1	2	50%	—	—
スポーツ健康科学研究科	7	3	—	—	—	10	68	14.7%	7	12.7%
応用人間科学研究科	10	—	—	—	—	10	79	12.6%	4	5.1%
言語教育情報研究科	13	—	—	—	—	13	95	13.6%	6	6.4%
先端総合学術研究科	—	—	18	—	—	18	140	12.8%	7	4.7%
テクノロジー・マネジメント研究科	4	5	—	—	—	9	105	8.5%	7	5.8%
法務研究科	—	—	—	7	—	7	132	5.3%	1	0.5%
経営管理研究科	—	—	—	6	—	6	74	8.1%	3	4.1%
映像研究科	1	—	—	—	—	1	10	10.0%	3	23.0%
総計	216	59	18	13	1	307	2735	11.2%	169	5.8%



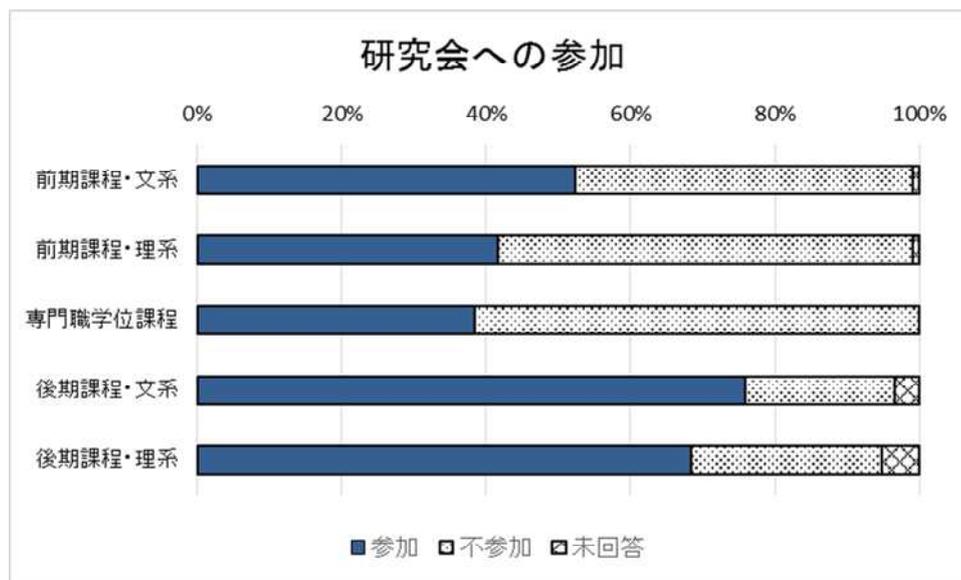
- 「研究・学習時間」について、前期課程においては文系より理系の時間数が長い、後期課程においては理系より文系の時間数が長い。
- 「書籍」の読書数について、課程問わず理系より文系が約2倍多い。
- 「論文数」の読書数について、課程問わず理系より文系が多い。後期課程の論文数については理系より文系が約2倍多い。

②研究会への参加と研究仲間

【図表 1－6 研究科・勉強会参加状況】

1-6. 現在、定期的に開催される研究会や勉強会(公式または非公式問わず)に参加していますか。				
	参加	不参加	未回答	計
人数	164 人	133 人	5 人	307 人
割合	53.4%	45.0%	1.6%	100.0%

【図表 1－7 研究会への参加】



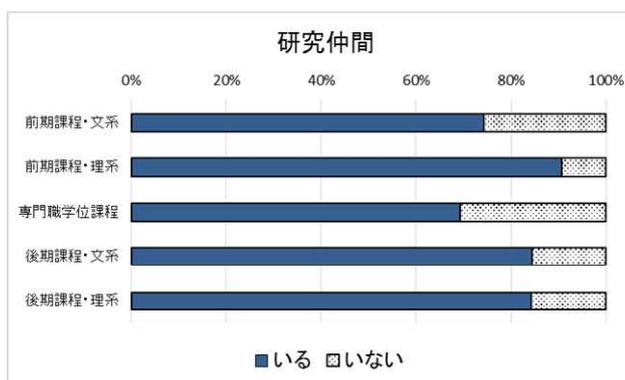
【講評】

- ・「研究会・勉強会」について、全体の参加率は 53.4%であり、半数以上が参加している。前期課程では約 50%、後期課程では約 70%の大学院生が参加している。
- ・課程問わず理系より文系の参加率が高い。

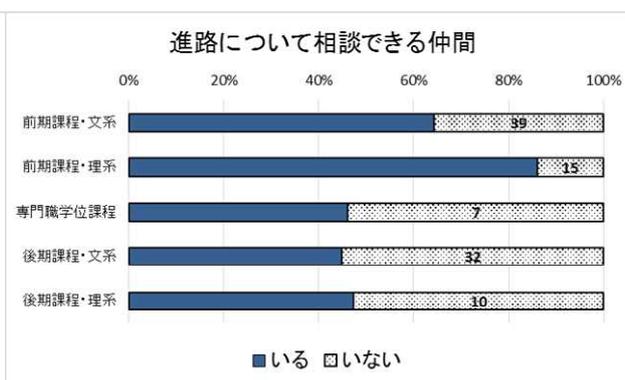
【図表1-8 仲間の存在】

1-7. 研究活動とともに進めていく仲間（大学・機関問わず）はいますか。						
1 研究活動について相談できる仲間がいる						
2 進路について相談できる仲間がいる						
3 授業・ゼミの講義について相談できる仲間がいる						
4 一緒に食事するなどプライベートを共にする仲間がいる						
5 1~4以外の仲間がいる						
6 仲間がない						
	1 研究活動		2 進路		3 授業・ゼミ	
	いる	いない	いる	いない	いる	いない
人数	253人	54人	204人	103人	240人	67人
割合	82.4%	17.6%	66.4%	33.6%	78.2%	21.8%
	4 プライベート		5 1~4以外の仲間		6 仲間がない	
	いる	いない	いる	いない	いない	
人数	256人	51人	156人	151人	9人	
割合	83.4%	16.6%	50.8%	49.8%	-	

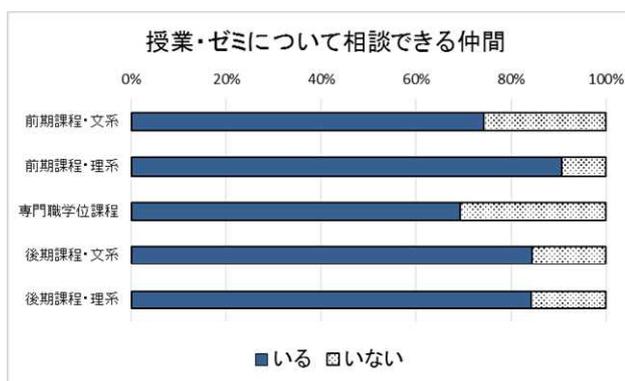
【図表1-9 研究仲間】



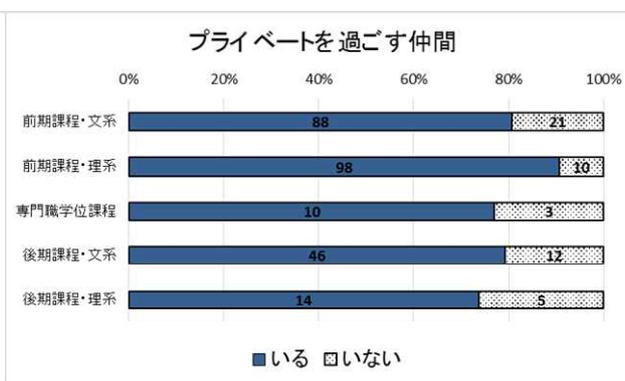
【図表1-10 進路】



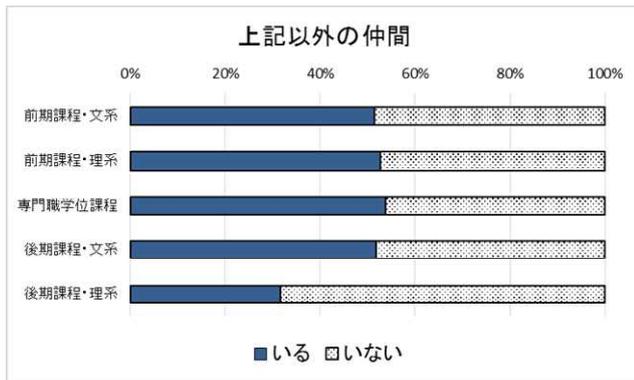
【図表1-11 授業・ゼミ】



【図表1-12 プライベート】



【図表 1-13 研究仲間】



【講評】

- ・全体として、「研究活動について相談できる仲間」(82.4%)、「プライベートを共にする仲間」(83.4%)の割合が高く、「進路について相談できる仲間」(66.4%)の割合が低い。
- ・「進路について相談できる仲間」について、後期課程は仲間がいる割合が50%以下である。
- ・「研究活動について相談できる仲間」「進路について相談できる仲間」「授業について相談できる仲間」「プライベートを過ごす仲間」以外の仲間の存在について、全体としては約50%が仲間がいるが、後期課程理系のみ約30%と割合が低い。

③研究業績必要数と実績数

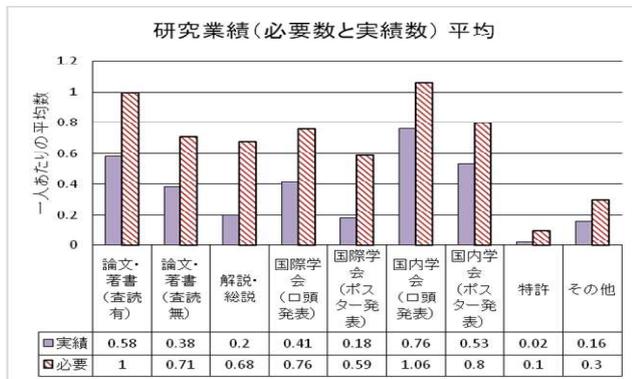
【図表1-14 研究業績必要数と実績数】

1-8. 過去1年間にどのぐらいの業績を出してきましたか(該当する項目がない場合は記入いただく必要はございません)。  
 1-9. 1年間にどのぐらいの業績を出す必要があると考えていますか(該当する項目がない場合は記入いただく必要はございません)。

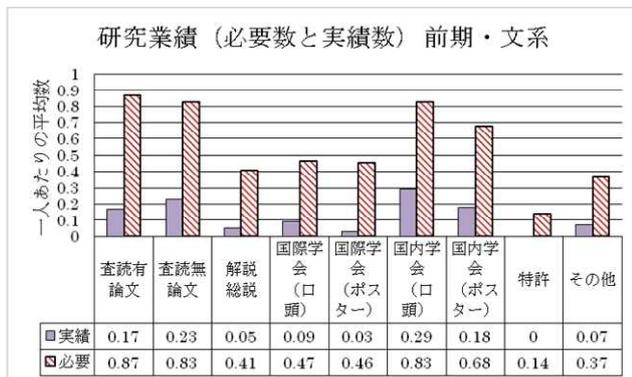
- ①学術雑誌等(紀要・論文集等も含む)に発表した論文、著書(査読あり)
- ②学術雑誌等(紀要・論文集等も含む)に発表した論文、著書(査読なし)
- ③学術雑誌等又は商業誌における解説、総説
- ④国際会議における発表(口頭発表)
- ⑤国際会議における発表(ポスター発表)
- ⑥国内学会・シンポジウム等における発表(口頭発表)
- ⑦国内学会・シンポジウム等における発表(ポスター発表)
- ⑧特許等
- ⑨その他(受賞歴等)

	①論文・著書 (査読有)		②論文・著書 (査読無)		③解説・総説	
	実績数	必要数	実績数	必要数	実績数	必要数
平均	0.58	1.00	0.38	0.71	0.20	0.68
	④国際学会 (口頭発表)		⑤国際学会 (ポスター発表)		⑥国内学会 (口頭発表)	
	実績数	必要数	実績数	必要数	実績数	必要数
平均	0.41	0.76	0.18	0.59	0.76	1.06
	⑦国内学会 (ポスター発表)		⑧特許		⑨その他	
	実績数	必要数	実績数	必要数	実績数	必要数
平均	0.53	0.80	0.02	0.10	0.16	0.30

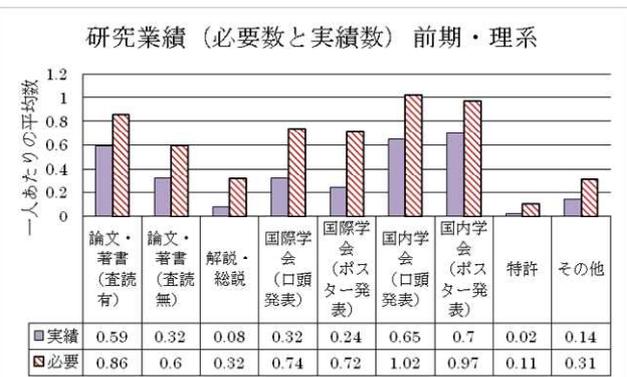
【図表1-15 研究業績(平均)】



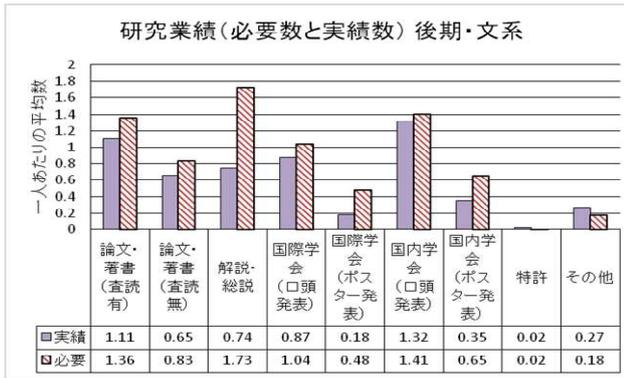
【図表1-16 研究業績(前期・文系)】



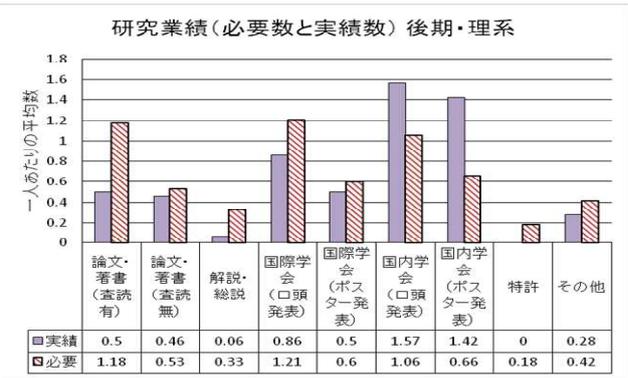
【図表1-17 研究業績(前期・理系)】



【図表1-18 研究業績（後期・文系）】



【図表1-19 研究業績（後期・理系）】



【講評】

- ・ 研究業績の実績数について、前期課程においては分野問わず実績数が必要数を下回っている。
- ・ 後期課程理系について、国内学会は実績数が必要数を上回っている。
- ・ 研究業績の実績数と必要数を比較すると、前期課程では実績数が必要数に到達していないが、後期課程では実績数が必要数を上回っている。
- ・ 後期課程文系について、論文(査読有)、国内学会発表の必要数が「1」を上回っており、在学中に業績を作る必要があると考えられている。後期課程理系については文系に加えて、国際学会(口頭発表)についても必要数が「1」を上回っている。

2) 研究活動に対するモチベーションと研究業績数の関係性

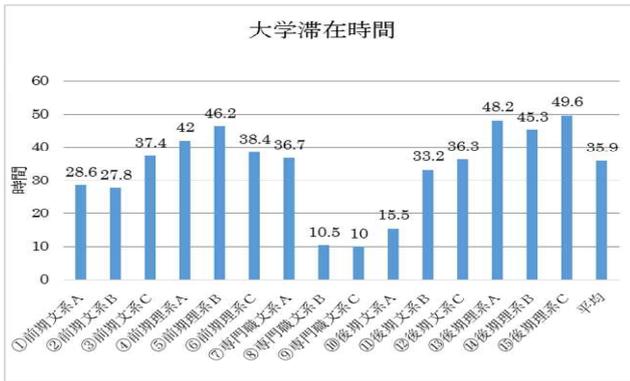
「論文」「学会」などの各研究業績数を課程、分野毎に15のグループに分類する。「A」グループは研究業績数が0のグループとする。「C」グループは研究業績数が多い上位1割とする。「B」グループはそれ以外の業績数が平均的であるグループとする。

【図表1-20 研究業績数毎のグループ分け】

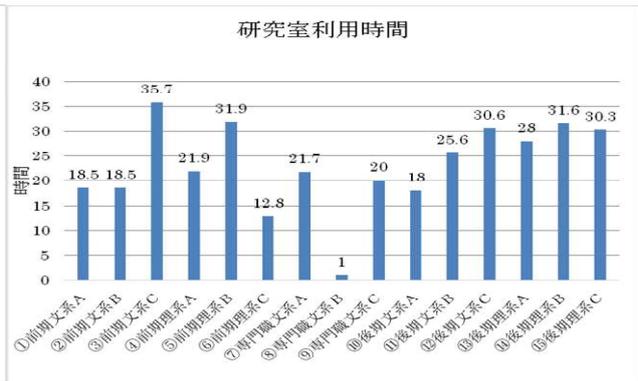
			研究業績数															
課程	分野	グループ	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	14	15以上	計
前期課程	文系	A	87															87
		B		6	4	5												15
		C					2	3	1						1			
前期課程	理系	A	36															36
		B		15	15	9	9	10										58
		C							1	5	6		1		1			14
専門職課程	文系	A	10															10
		B			2													2
		C					1											1
後期課程	文系	A	7															7
		B		11	10	7	4	3	2	3	2	3						45
		C														1	5	6
後期課程	理系	A	5															5
		B		1	4	5				1								11
		C													1		2	3
計			145	33	35	26	16	16	4	9	8	3	1	1	2	1	7	307

① 研究活動に対するモチベーション

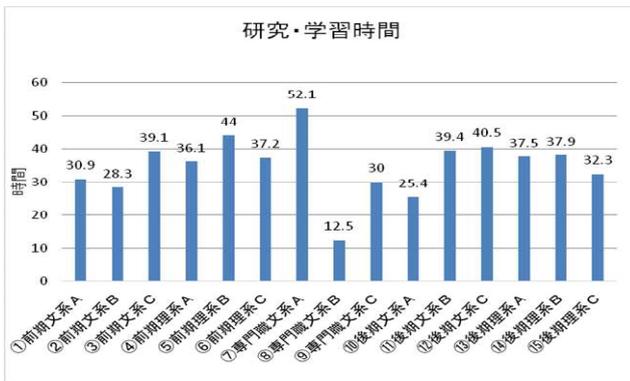
【図表 1-21 大学滞在時間】



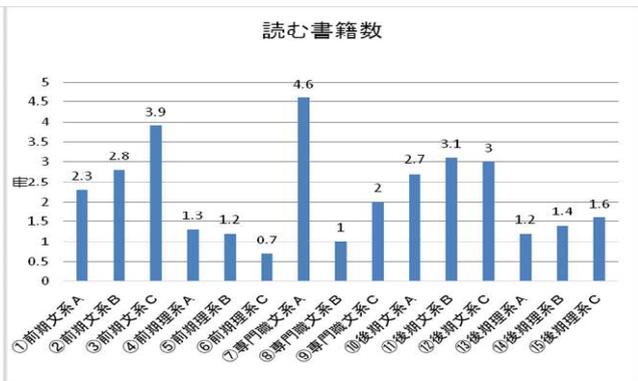
【図表 1-22 研究室利用時間】



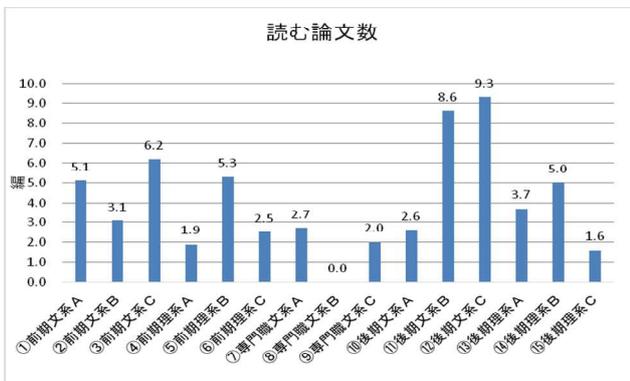
【図表 1-23 研究・学習時間】



【図表 1-24 書籍数】



【図表 1-25 論文数】

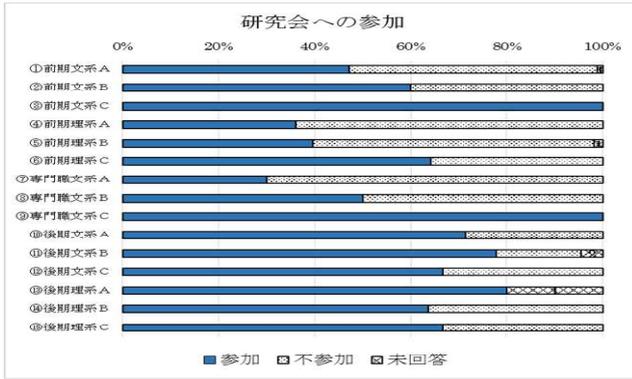


【講評】

- ・ 文系について、課程問わず「大学滞在時間」「研究室利用時間」「研究・学習時間」は研究業績数の多いグループほど時間数が高い。書籍数、論文数も同様である。
- ・ 理系について、グループごとの差は見られなかった。

② 研究会への参加と仲間の有無について

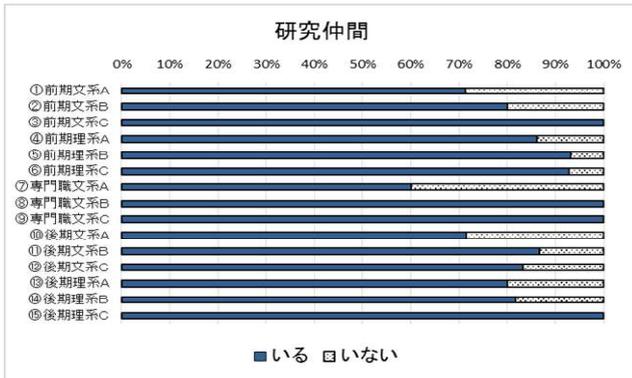
【図表1-26 研究・学習時間】



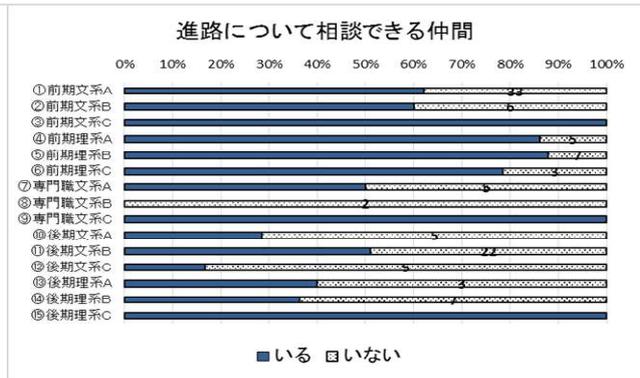
【講評】

- ・前期課程、専門職課程について、分野問わず研究業績数が多いグループの参加率が高い。前期文系グループ「C」については、参加率100%である。
- ・後期課程について、分野問わずグループごとの差は見られなかった。

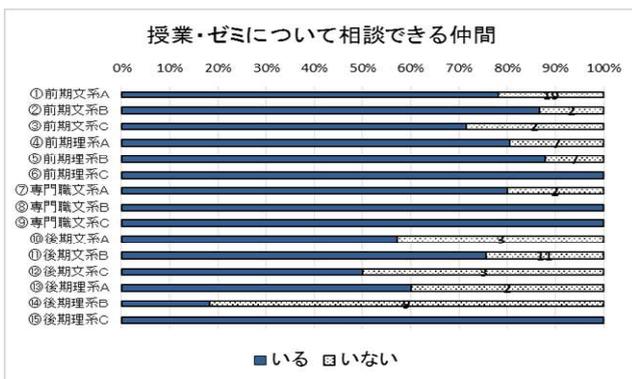
【図表1-27 研究仲間】



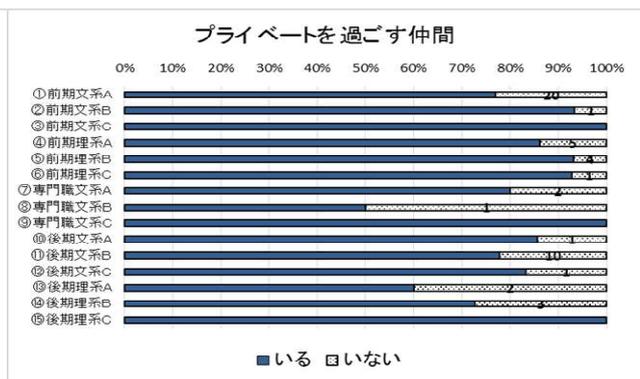
【図表1-28 進路】



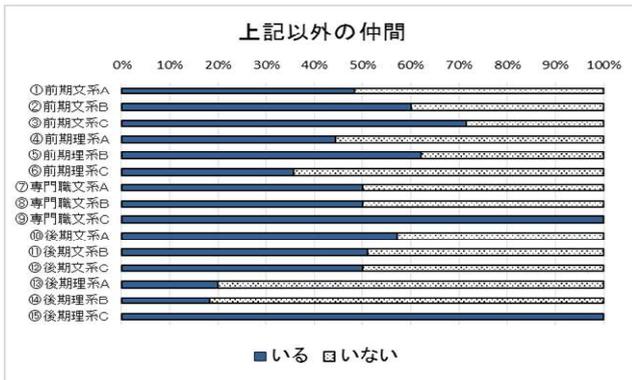
【図表1-29 授業・ゼミ】



【図表1-30 プライベート】



【図表 1-31 上記以外の仲間】



【講評】

- ・前期課程について、課程・分野問わず研究業績数が多いグループほど割合が高くなっている。前期文系グループ「C」について、「進路」「授業」「プライベート」は全員仲間がいると回答した。
- ・後期課程について、分野問わずグループごとの差は見られなかった。

## (2) 経済状況と研究業績

### 1) 経済状況

#### ①大学院生の収入状況

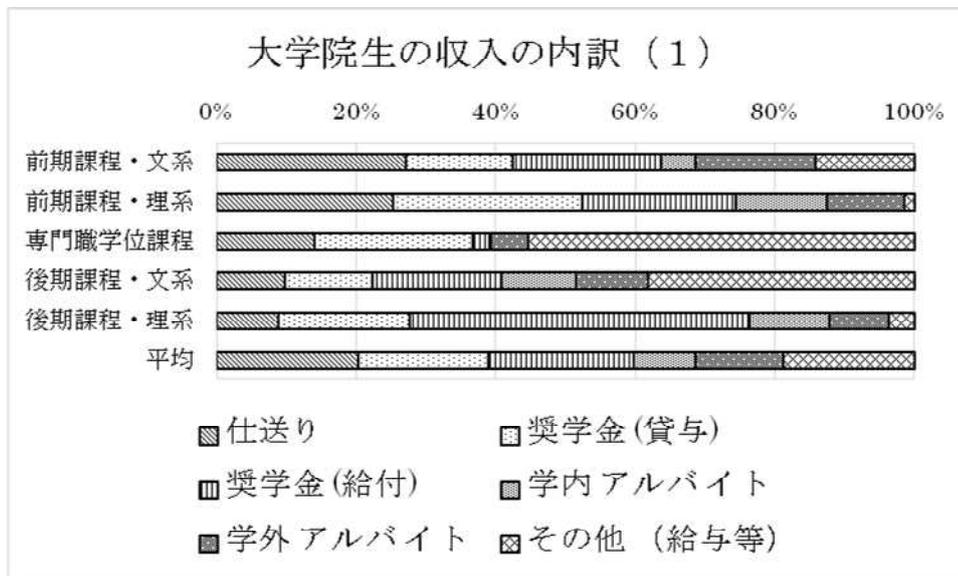
【図表 2-1 1ヶ月の収入】

2-1. 1ヶ月のおよその平均収入とその構成について教えてください。  
 ①仕送り ②奨学金(貸与) ③奨学金(給付) ④学内アルバイトの給与 ⑤学外アルバイトの給与  
 ⑥その他(給与等) ⑦総額

	仕送り	奨学金 (貸与)	奨学金 (給付)	学内 アルバ イト	学外 アルバ イト	その他	総額
平均	34,090 円	31,456 円	35,228 円	15,008 円	20,893 円	31,661 円	138,353 円
<b>課程・分野別</b>							
修士、前期課程・文系	44,316	25,373	34,705	8,223	28,153	22,979	130,556
修士、前期課程・理系	32,908	35,424	28,397	17,237	14,380	1,738	117,406
専門職学位課程	30,909	49,667	5,000	545	11,818	121,000	179,385
後期課程・文系	23,612	30,800	45,021	25,674	25,511	92,558	192,421
後期課程・理系	12,143	25,538	66,412	15,733	11,429	5,000	110,368

※社会人入試方式で入学した大学院生、国費留学生除く

【図表 2-2 収入の内訳】



#### 【講評】

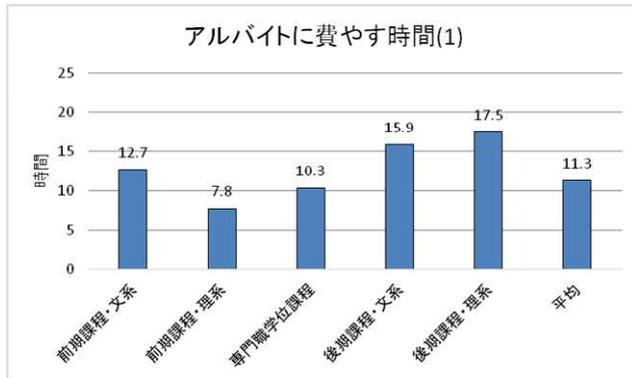
- ・大学院生の1ヶ月の平均収入は約13.8万円である。課程分野別で比較すると、後期課程文系(約19.2万円)が一番多く、後期課程理系(約11.0万円)が一番少なく、約2倍の差が見られる。
- ・大学院生の収入の内訳について、前期課程と後期課程理系においては、収入の約50%が奨学金である。後期課程文系においては奨学金による収入は30%程度である。
- ・仕送りによる収入について、前期課程は約30%であるが、後期課程は10%以下である。

②経済状況の負担感

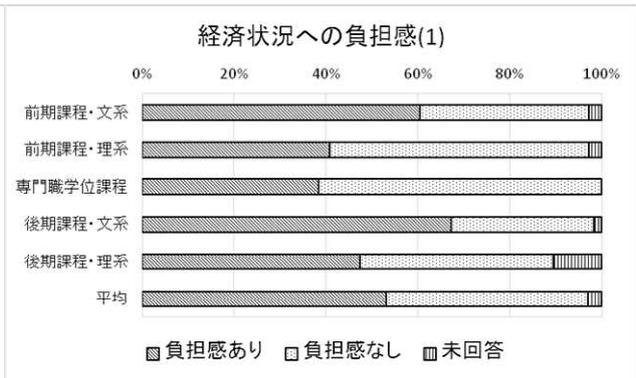
【図表 2-3 アルバイト時間・経済状況における負担感】

2-2 1週間のうち、アルバイトに費やしているおよその時間を教えてください。					
2-3 現在の経済状況に負担を感じていますか。					
	2-2	2-3			
	時間	感じている	感じていない	未回答	計
2-2 平均 2-3 計	11.3 時間	163 人	135 人	9 人	307 人
割合		53.1%	44.0%	2.9%	100.0%

【図表 2-4 アルバイト時間】



【図表 2-5 経済状況における負担感】



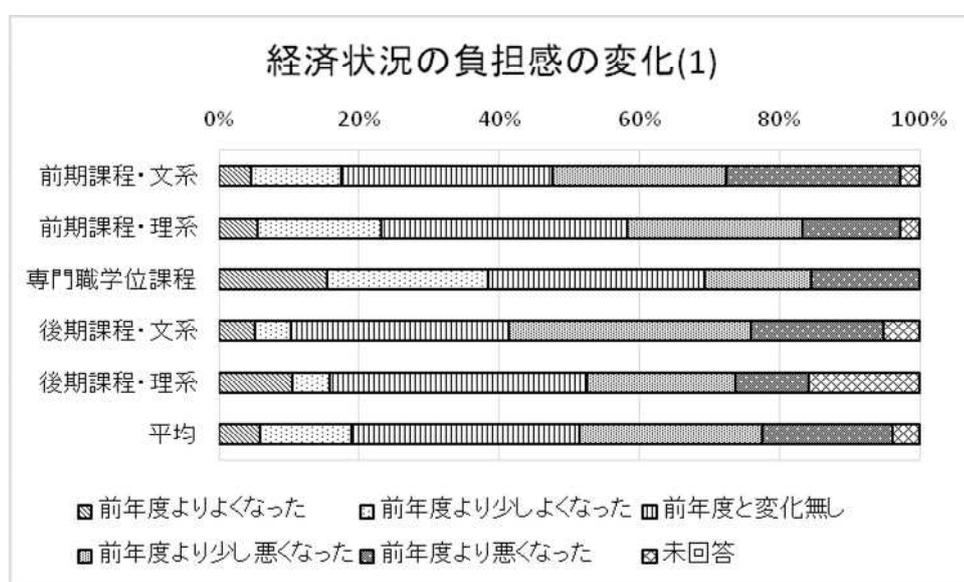
【講評】

- ・アルバイトに費やす時間について、前期課程より後期課程の方が長い。
- ・約 50%の大学院生が経済状況に負担を感じている。
- ・課程分野別で比較すると、文系が負担に感じている割合が約 60%と高く、理系が 50%弱である。

【図表 2-6 経済状況における前年度比較】

2-4 2014年度の経済状況について、前年度以前と比較して感じていることを教えてください。							
	1	2	3	4	5	未回答	計
人数	18人	40人	100人	80人	57人	12人	307人
割合	5.9%	13.0%	32.6%	26.1%	18.6%	3.9%	100.0%

【図表 2-7 経済状況における前年度比較】



【講評】

- ・ 全体的に、回答の割合は「前年度と変化無し」が一番多く 32.6%である。前年度より「よくなった」「少しよくなった」が 18.9%、「悪くなった」「少し悪くなった」が 44.7%であり、約半数の大学院生が前年度と比べると経済状況が悪くなっている。
- ・ 課程分野別による差はあまり見られない。

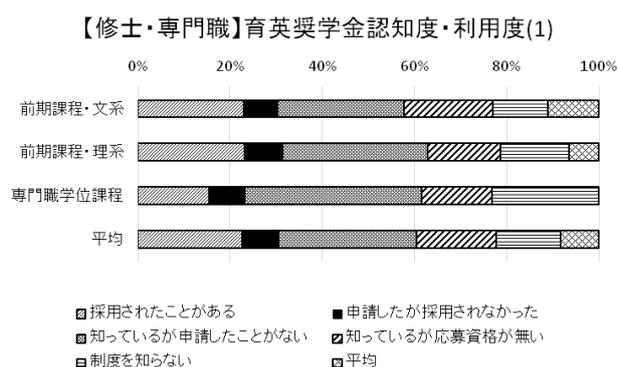
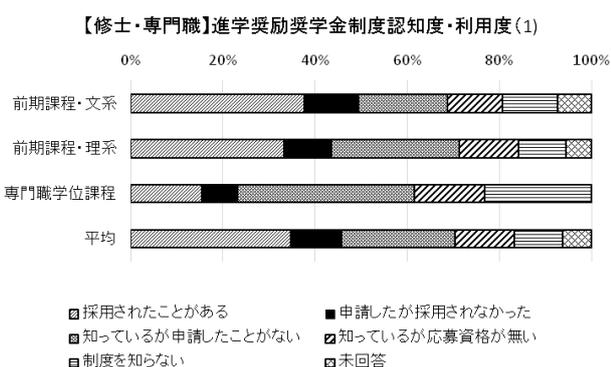
③ 奨学金・助成制度の認知度(博士課程前期課程のみ)

【図表 2-8 奨学金・助成制度の認知度】

【前期・修士課程・専門職学位課程のみ】						
2-6. 大学院生を対象とした奨学金制度を知っていますか。該当するものを選択してください						
<進学奨励奨学金>						
1. 採用されたことがある、2. 申請したが採用されなかった、3. 知っているが申請したことがない、 4. 知っているが応募資格が無い、5. 制度を知らない						
	1	2	3	4	5	未回答
<b>進学奨励奨学金</b>						
人数	79 人	25 人	56 人	29 人	24 人	14 人
割合	34.8%	11.0%	24.7%	12.8%	10.6%	6.2%
<b>育英奨学金</b>						
人数	52 人	18 人	69 人	40 人	32 人	19 人
割合	22.6%	7.8%	30.0%	17.4%	13.9%	8.3%

【図表 2-9 進学奨励奨学金】

【図表 2-10 育英奨学金】



【講評】

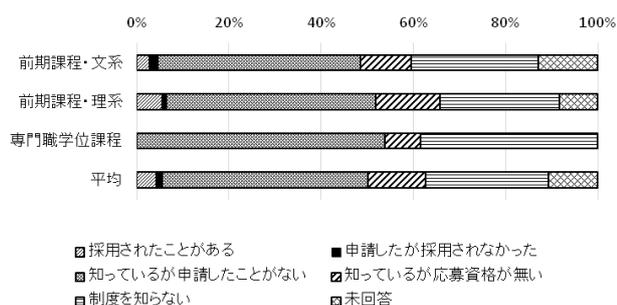
- ・奨学金の認知度は分野問わず約 90%であり、約 10%の大学院生が本奨学金を知らない。
- ・課程分野別で比較すると、専門職学位課程の約 20%が本奨学金を知らない。文系、理系による認知度の差は見られなかった。

【図表 2-1 1 (前期課程・専門職学位課程) 研究助成制度の認知度・利用度】

【前期・修士課程・専門職学位課程のみ】						
2-6. 大学院生を対象とした奨学金制度を知っていますか。該当するものを選択してください						
<留学協定等にもとづく留学プログラムに対する奨学金>						
1. 採用されたことがある、2. 申請したが採用されなかった、3. 知っているが申請したことがない、 4. 知っているが応募資格が無い、5. 制度を知らない						
	1	2	3	4	5	未回答
留学協定等にもとづく留学プログラムに対する奨学金						
人数	9人	3人	97人	27人	58人	23人
割合	4.1%	1.4%	44.8%	12.4%	26.7%	10.6%
国内・外学会参加補助制度						
人数	58人	1人	97人	13人	41人	20人
割合	25.2%	0.4%	42.2%	5.7%	17.8%	8.7%
研究実践活動補助制度						
人数	10人	1人	82人	18人	87人	19人
割合	4.6%	0.5%	37.8%	8.3%	40.1%	8.8%
ベーススキル向上のための支援制度						
人数	10人	3人	77人	8人	99人	20人
割合	4.6%	1.4%	35.5%	3.7%	45.6%	9.2%
研究会活動支援制度						
人数	14人	2人	76人	15人	91人	19人
割合	6.5%	0.9%	35.0%	6.9%	41.9%	8.8%

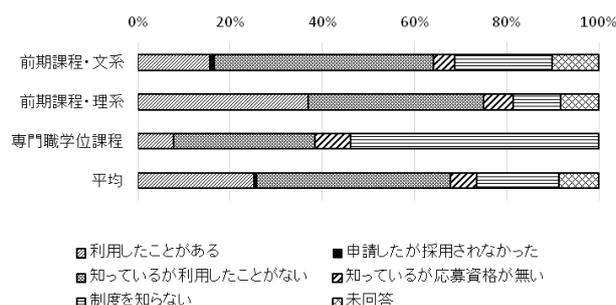
【図表 2-1 2 留学協定】

【修士・専門職】留学協定等にもとづく留学プログラムに対する奨学金の認知度・利用度(1)

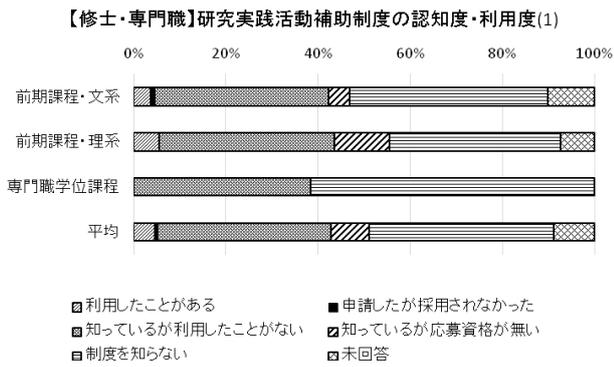


【図表 2-1 3 学会参加補助制度】

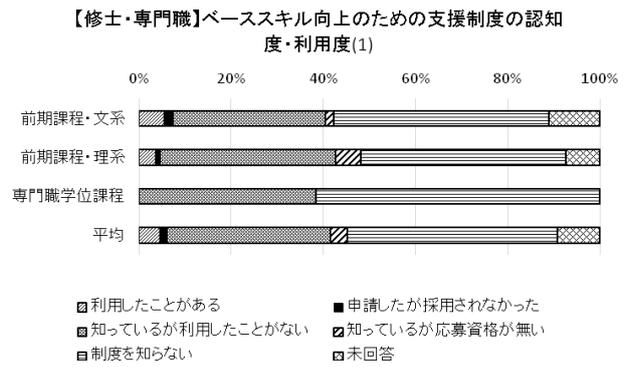
【修士・専門職】国内・外学会参加補助制度の認知度・利用度(1)



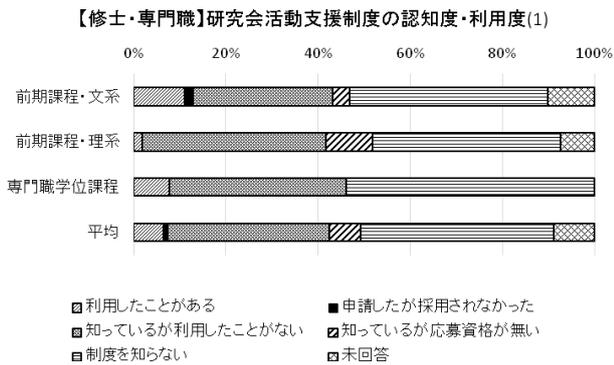
【図表 2-14 研究実践活動補助制度】



【図表 2-15 ベーススキル】



【図表 2-16 研究科活動支援制度】



【講評】

- ・「協定留学奨学金」65%、「学会発表補助」約75%の認知度であるが、「研究活動実践補助制度」「④研究活動支援制度」「ベーススキル」の認知度は40~50%程度である。
- ・理系について、「学会発表補助」の認知度は80%を超えている。
- ・「学会発表補助」以外について、分野による認知度の差は見られなかった。

【図表 2-17 (後期課程) 研究助成制度の認知度・利用率】

2-7 【後期課程のみ】大学院での学修・研究を支援するための次の各助成制度を知っていますか。該当するものを選択してください。

< 研究奨励奨学金 >

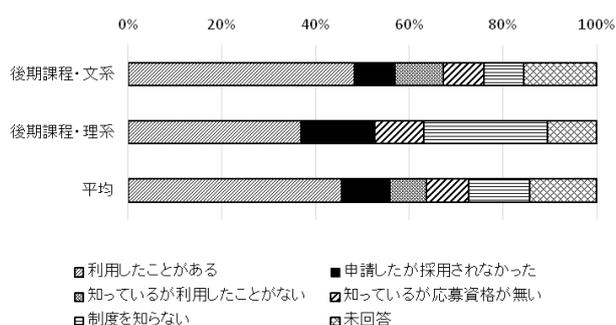
1. 利用したことがある、2. 申請したが採用されなかった、3. 知っているが利用したことがない
4. 知っているが応募資格が無い、5. 制度を知らない

	1	2	3	4	5	未回答
<b>研究奨励奨学金</b>						
計	35人	8人	6人	7人	10人	11人
	45.5%	10.4%	7.8%	9.1%	13.0%	14.3%
<b>海外協定に基づく留学プログラム</b>						
計	1人	0人	30人	15人	21人	10人
	1.3%	0.0%	39.0%	19.5%	27.3%	13.0%
<b>国際的研究活動促進研究費制度</b>						
計	16人	4人	26人	7人	16人	8人
	20.8%	5.2%	33.8%	9.1%	20.8%	10.4%
<b>国内・外学会発表補助制度</b>						
計	39人	0人	20人	2人	6人	10人
	50.6%	0.0%	26.0%	2.6%	7.8%	13.0%
<b>研究会活動支援制度</b>						
計	12人	5人	32人	1人	18人	9人
	15.6%	6.5%	41.6%	1.3%	23.4%	11.7%

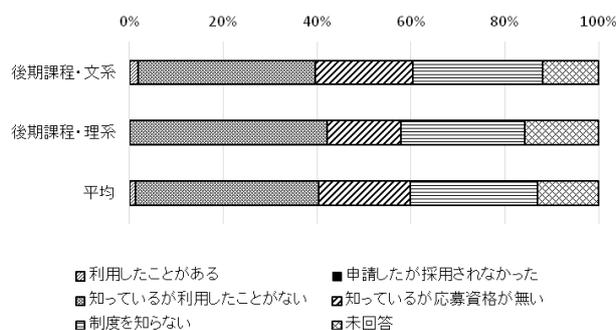
【図表 2-18 研究奨励奨学金】

【図表 2-19 海外協定留学プログラム】

【後期】研究奨励奨学金の認知度・利用率(1)



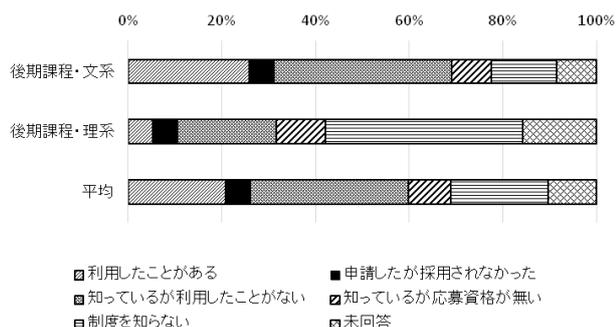
【後期】海外協定に基づく留学プログラムの認知度・利用率(1)



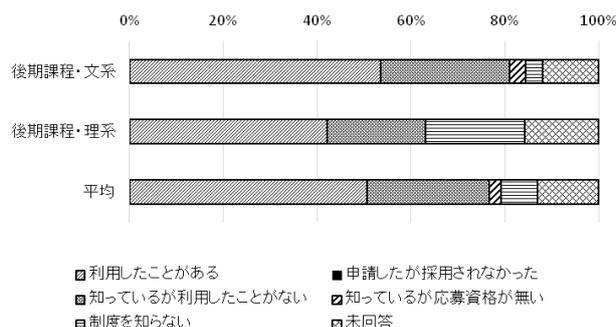
【図表 2-20 国際的研究活動促進研究費】

【図表 2-21 学会発表補助制度】

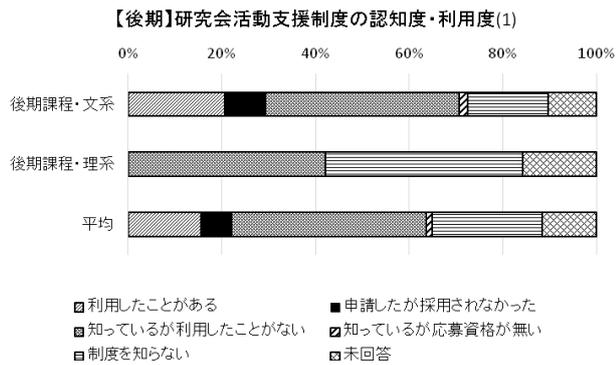
【後期】国際的研究活動促進研究費制度の認知度・利用率(1)



【後期】国内・外学会発表補助制度の認知度・利用率(1)



## 【図表 2-2 2 研究会活動支援制度】



### 【講評】

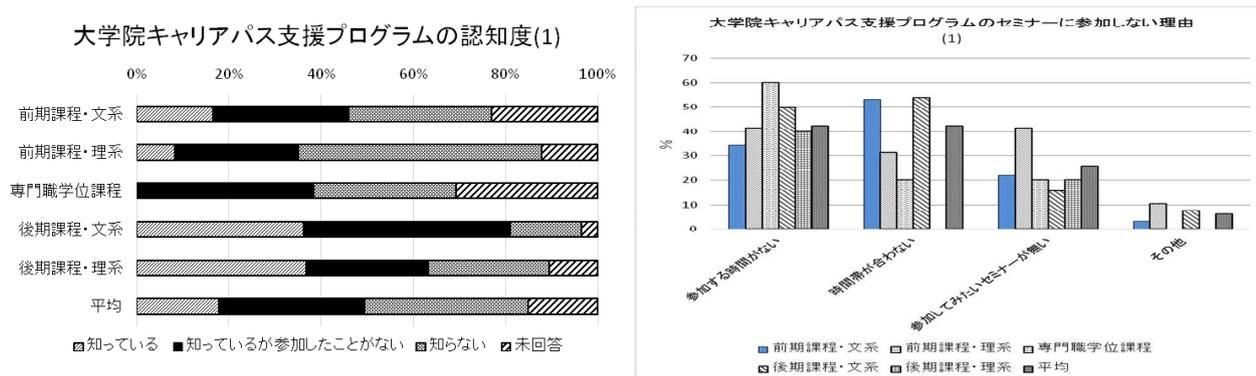
- ・全体として、本奨学金の認知度は約 70%であり、約 10%の大学院生が本奨学金を知らない。文系の認知度が約 80%あるのに対して、理系の認知度が低く、約 60%程度にとどまっている。
- ・奨学金だけではなく、研究助成制度についても、社系より理系の認知度が低い。
- ・全体として、「学会発表補助」80%の認知度であるが、理系の認知度は約 60%にとどまっている。
- ・「国際的研究活動促進研究費制度」に認知度は約 70%であるが、理系の認知度は約 40%である。
- ・「海外協定に基づく留学プログラム」と「研究会活動支援制度」の認知度は約 60%である。

④大学院キャリアパス支援プログラムの認知度

【図表 2-23 大学院キャリアパス支援プログラムの認知度】

2-8 キャリアパスセミナーを知っていますか？					
	知っている	知っているが参加したことがない	知らない	未回答	計
人数	55 人	97 人	109 人	46 人	307 人
平均	17.9%	31.6%	35.5%	15.0%	100.0%
知っているが参加しない理由 (97 人対象) ※複数回答有					
	参加する時間 余裕が無い	時間帯が 合わない	参加してみたい セミナーが無い	その他	知っているが 参加しない人
人数	41 人	41 人	25 人	6 人	97 人
平均	42.3%	42.3%	25.8%	6.2%	—

【図表 2-24 大学院キャリアパス支援プログラムの認知度・セミナーに参加しない理由】



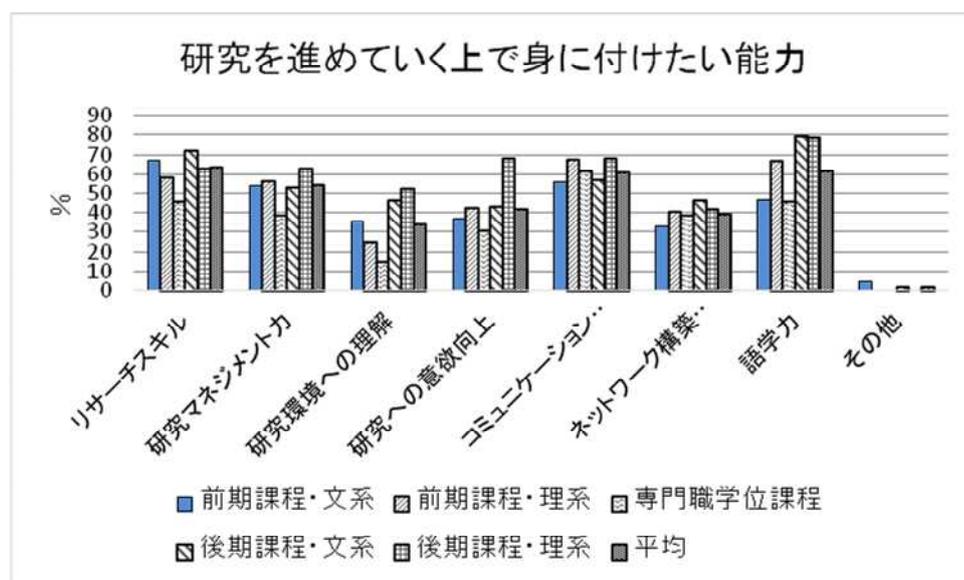
【講評】

- ・大学院キャリアパス支援プログラムの認知度は、分野間では認知度の差は見られないが、課程間では大きな差が見られる(前期課程 50%、後期課程 70%)。
- ・大学院キャリアパス支援プログラムを知っている大学院生におけるセミナー等の参加状況は、分野間で差は見られないが、課程間においては、前期課程学生の約 10%、後期課程の約 35%しか参加したことがない。参加したことがない主な理由は「参加する時間・余裕がない」「時間が合わない」ことである。

【図表 2-25 研究を進めていく上で身に付けたい能力】

研究を進めていく上で身に付けたい能力(複数回答有)				
1:リサーチスキル(統計・分析、先行文献の探し方、フィールド調査方法等)				
2:研究マネジメント力(研究計画・情報収集発信・情報管理)				
3:研究環境への理解(大学院修了後の進路就職状況、大学における教員ポストの新規採用状況)				
4:研究への意欲向上(モチベーション向上) 5:コミュニケーション能力(表現力・論述力)				
6:ネットワーク構築力・チームワーク力 7 語学力(英語能力向上) 8:その他				
	1	2	3	4
人数	196 人	168 人	105 人	128 人
割合	63.8%	54.7%	34.2%	41.7%
	5	6	7	8
人数	188 人	120 人	190 人	6 人
割合	61.2%	39.1%	61.9%	2.0%

【図表 2-26 研究を進めていく上で身に付けたい能力】



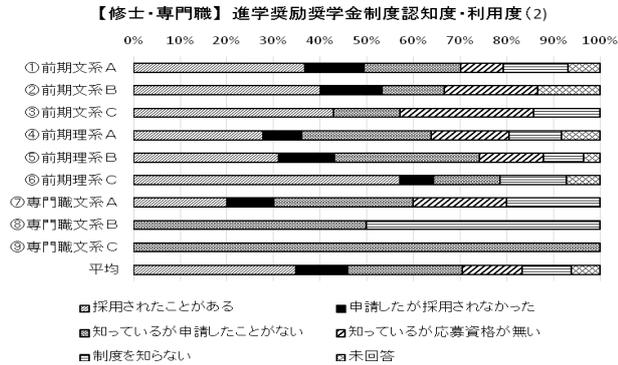
【講評】

- ・全体として、「リサーチスキル(統計・分析、先行文献の探し方、フィールド調査方法等)」「語学力」については約 60%の大学院生が身につけたいと考えている。
- ・「リサーチスキル(統計・分析、先行文献の探し方、フィールド調査方法等)」について、課程分野問わず身につけたいと考えられているが、「語学力」については、後期課程の大学院生の約 80%が身につけたいと考えている。

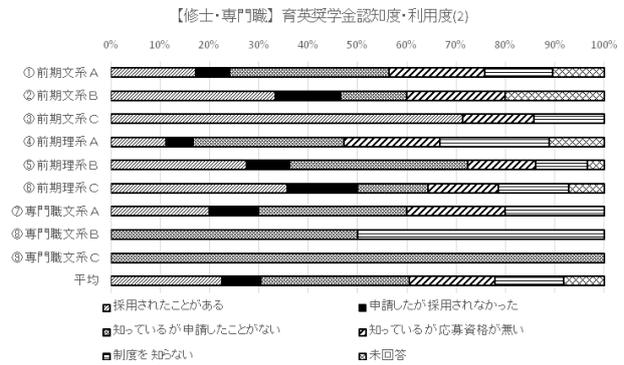
## 2) 研究業績数と奨学金・研究助成制度の認知度・利用度の関係性

### ①前期課程

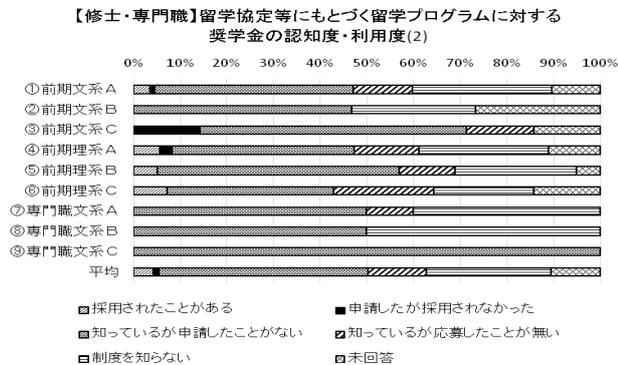
【図表 2-27 進学奨励奨学金】



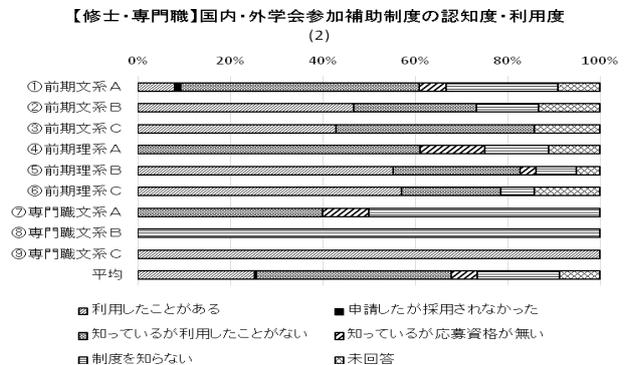
【図表 2-28 育英奨学金】



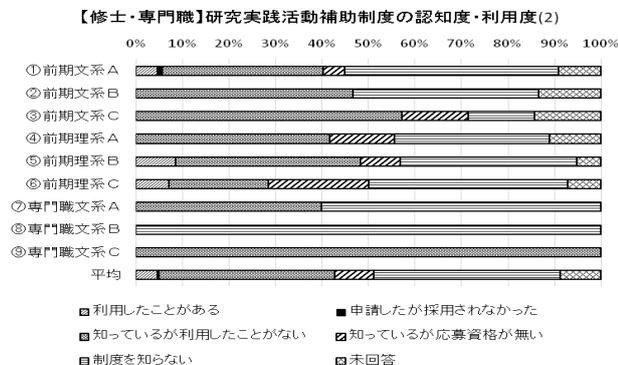
【図表 2-29 留学協定留学プログラム】



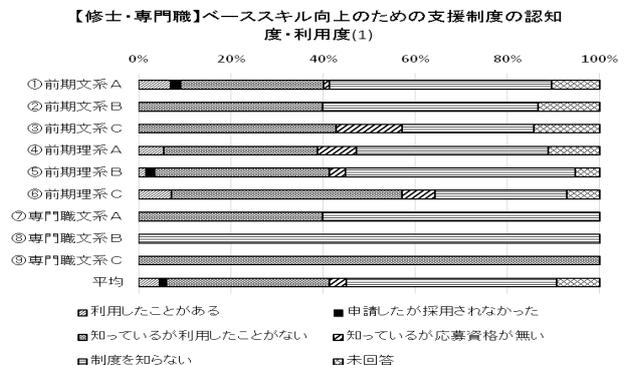
【図表 2-30 学会参加費補助制度】



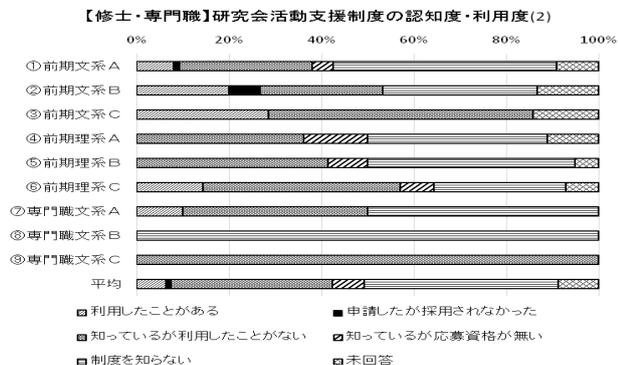
【図表 2-31 研究実践活動補助制度】



【図表 2-32 ベーススキル】



【図表 2-33 研究会活動支援制度】

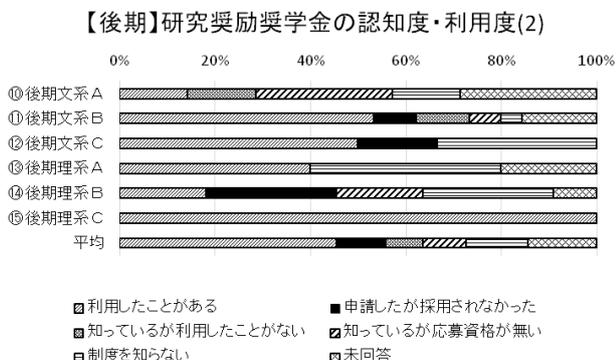


### 【講評】

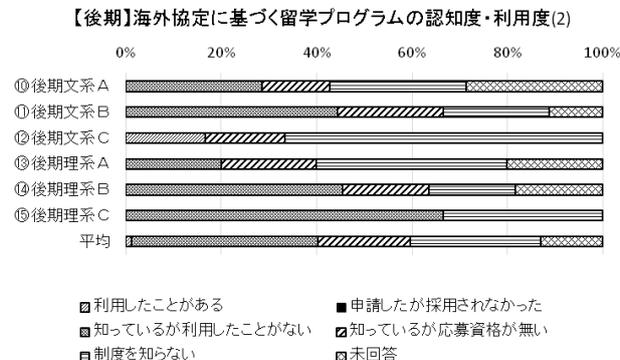
- ・奨学金・助成制度におけるグループ毎の認知度について、文系は研究業績数の多いグループほど認知度が高く、グループCにおいては「留学協定等にもとづく留学プログラム」「国内・国外学会補助制度」「研究会活動支援制度」の認知度は100%である。
- ・理系は研究業績数によるグループ間の差は見られなかった。

## ② 後期課程

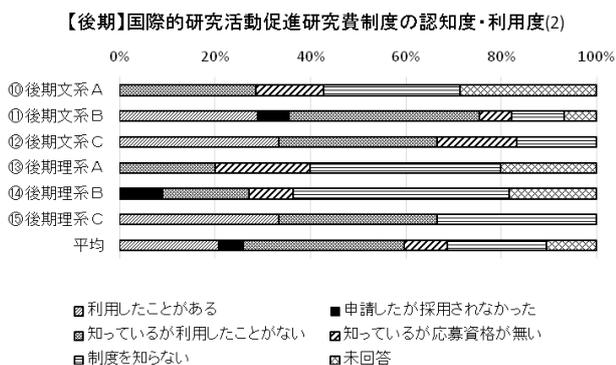
### 【図表2-34 研究奨励奨学金】



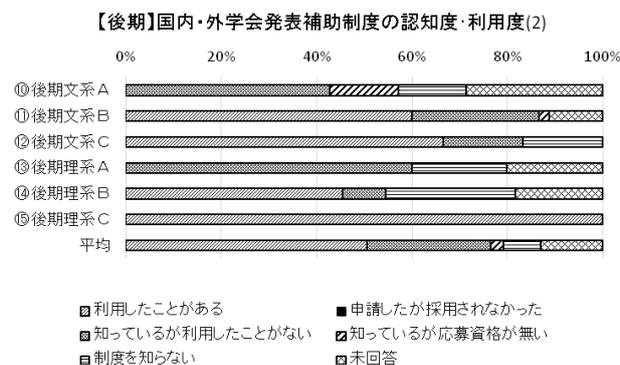
### 【図表2-35 海外協定留学プログラム】



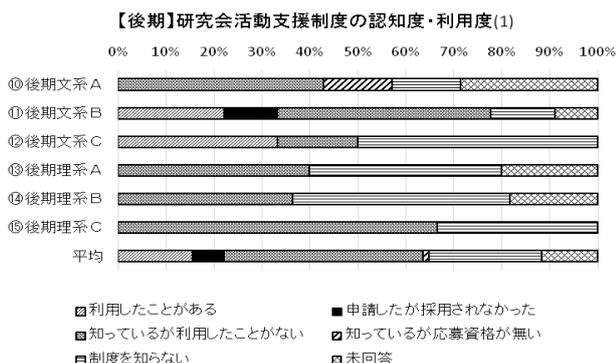
### 【図表2-36 国際的研究活動促進研究費】



### 【図表2-37 学会活動補助制度】



### 【図表2-38 研究会活動支援制度】



## 【講評】

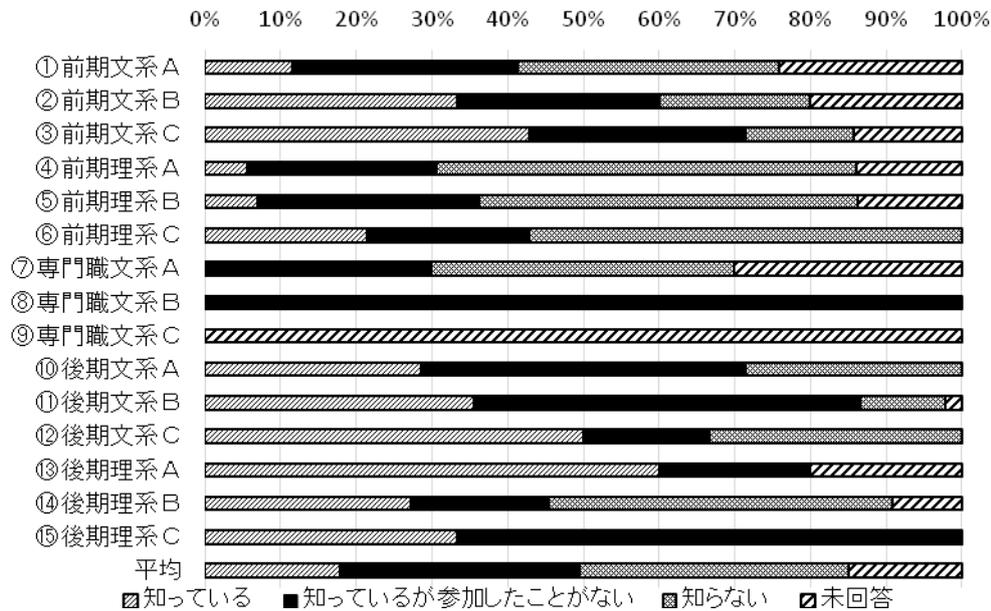
- ・「国内・国外学会発表補助制度」「国際的研究活動促進研究費」について、研究業績数が多いグループ「C」の認知度が高く、利用度も高い。
- ・「国内・国外学会発表補助制度」について、グループ「A」の認知度が約60%に対して、グループ「C」は社系80%、理系100%と認知度が高い。また、利用度について、グループ「A」が0%に対して、グループCの利用度は社系70%、理系100%である。
- ・「国際的研究活動促進研究費」について、グループ「A」「B」の認知度が約30%に対して、グループ「C」は70%と認知度が高い。また、利用度について、グループ「A」が0%に対して、グループCの利用度

は 30%である。

③ 大学院キャリアパス支援プログラムの認知度と研究業績

【図表 2-39 大学院キャリアパス支援プログラムの認知度】

大学院キャリアパス支援プログラムの認知度(2)



【講評】

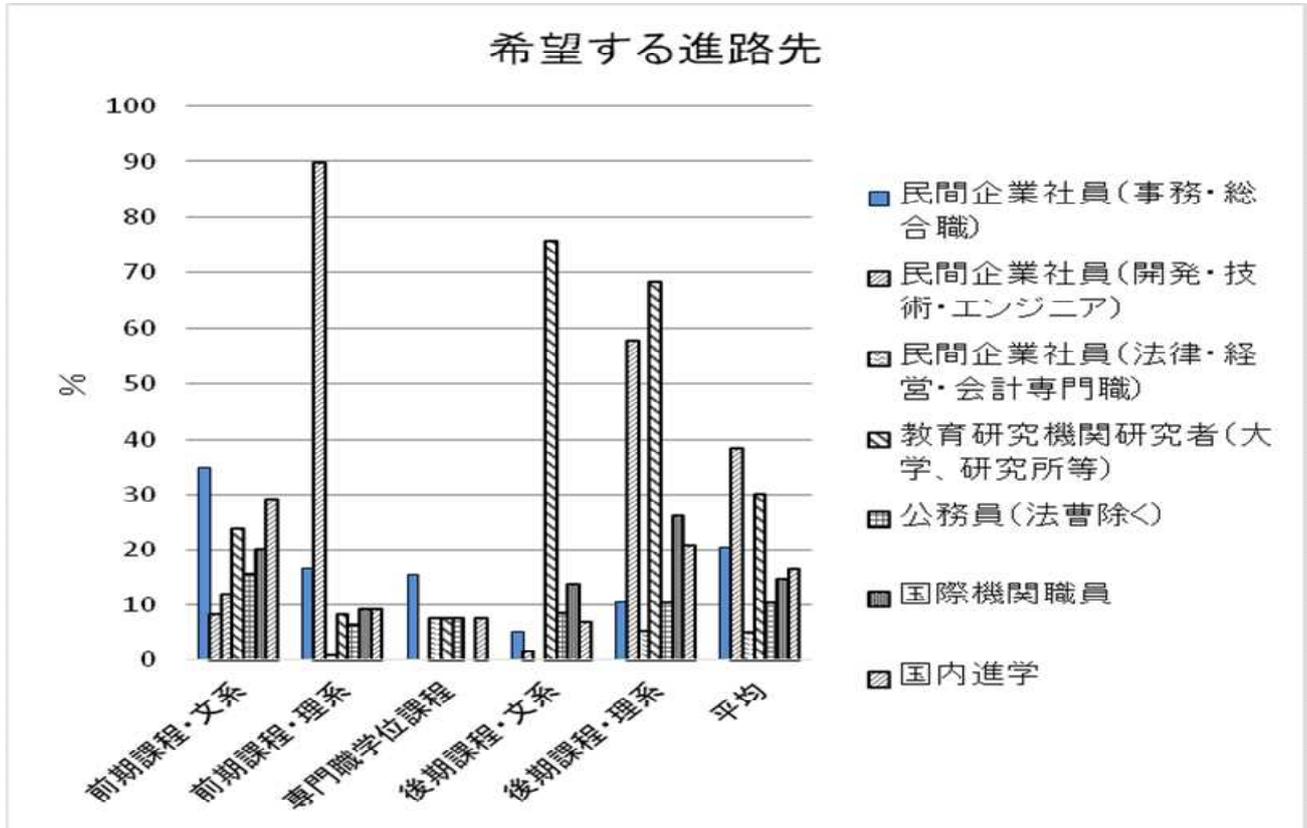
- ・ 全体的に、大学院キャリアパス支援プログラムの認知度について、研究業績数の多いグループほど、認知度が高い。
- ・ 後期理系のグループ C の認知度は 100%である。

### (3) キャリアと研究業績

#### 1) キャリア

①希望進路先(複数回答有)

【図表3-1 希望する進路先】



#### 【講評】

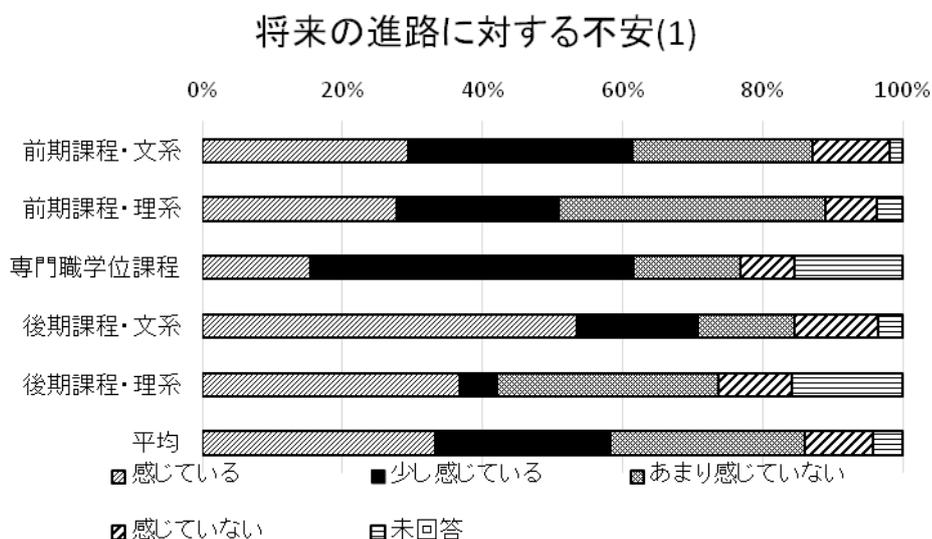
- ・理系の希望進路先について、前期課程約90%が「民間企業(開発・技術・エンジニア)」、後期課程の約70%が「教育研究機関研究者(大学、研究所等)」の進路を希望している。
- ・文系の希望進路先について、前期課程では突出した進路先はないが、後期課程では約75%が「教育研究機関研究者(大学、研究所等)」の進路を希望している。また、民間企業を希望する大学院生は数%である。
- ・後期課程理系について、約60%が「民間企業(開発・技術・エンジニア)」と約70%が「教育研究機関研究者(大学、研究所等)」の進路を希望しており、二極化している。

②将来の進路に対する不安

【図表 3-2 将来の進路に対する不安】

3-3 将来の進路について不安を感じていますか。(複数回答有)					
	感じている	少し感じている	あまり感じていない	感じていない	未回答
人数	102 人	77 人	85 人	30 人	13 人
割合	33.2%	25.1%	27.7%	9.8%	4.2%

【図表 3-3 将来の進路に対する不安】



【講評】

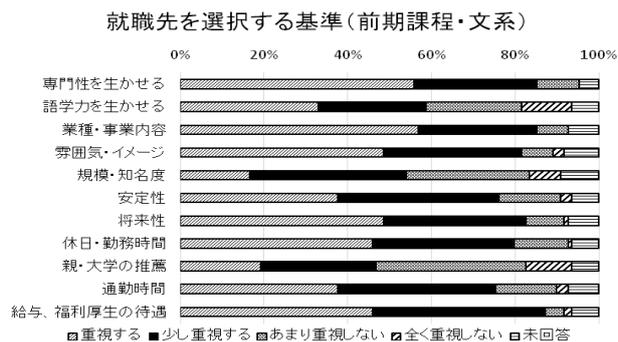
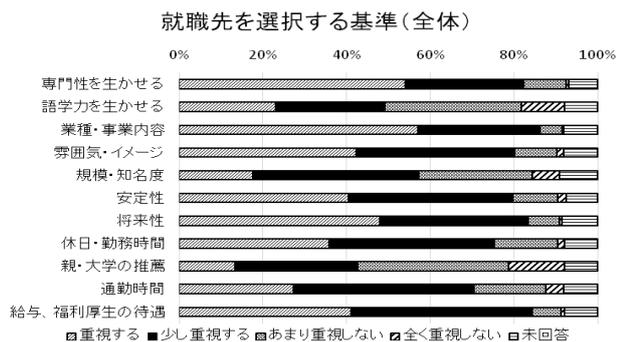
- ・ 将来の進路に対する不安について、前期課程よりも後期課程の方が不安に思っている比率が高い。特に、後期課程文系の約 70%が不安に思っている。

【図表 3-4 就職先を選択する基準】

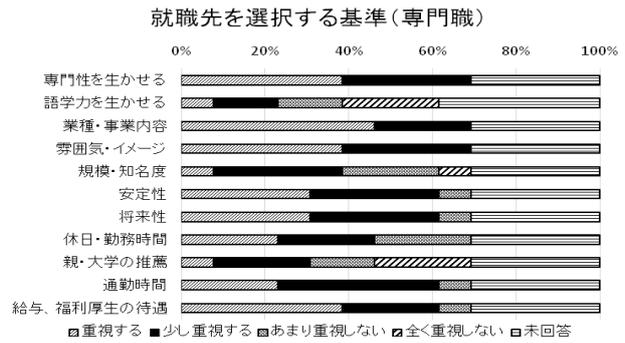
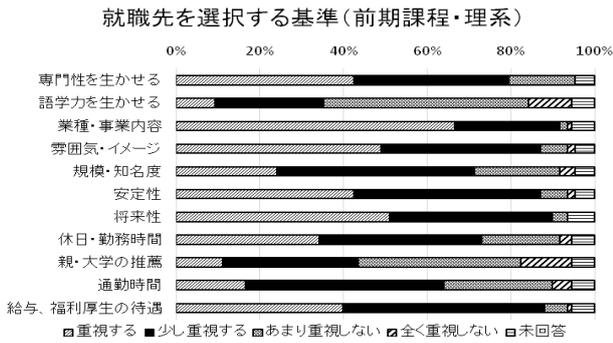
3-2 就職先を選択する基準					
1 重視する					
2 少し重視する					
3 あまり重視しない					
4 全く重視しない					
全体	重視する	少し重視する	あまり重視しない	まったく重視しない	未回答
専門性を生かせる	166 人	87 人	31 人	2 人	21 人
	54.1%	28.3%	10.1%	0.7%	6.8%
語学力を生かせる	71 人	80 人	100 人	32 人	24 人
	23.1%	26.1%	32.6%	10.4%	7.8%
業種・事業内容	175 人	90 人	16 人	1 人	25 人
	57.0%	29.3%	5.2%	0.3%	8.1%
雰囲気・イメージ	130 人	116 人	31 人	5 人	25 人
	42.3%	37.8%	10.1%	1.6%	8.1%
規模・知名度	54 人	122 人	83 人	20 人	28 人
	17.6%	39.7%	27.0%	6.5%	9.1%
安定性	124 人	121 人	33 人	6 人	23 人
	40.4%	39.4%	10.7%	2.0%	7.5%
将来性	147 人	109 人	23 人	2 人	26 人
	47.9%	35.5%	7.5%	0.7%	8.5%
休日・勤務時間	110 人	121 人	47 人	5 人	24 人
	35.8%	39.4%	15.3%	1.6%	7.8%
親・大学の推薦	41 人	90 人	111 人	41 人	24 人
	13.4%	29.3%	36.2%	13.4%	7.8%
通勤時間	84 人	132 人	53 人	13 人	25 人
	27.4%	43.0%	17.3%	4.2%	8.1%
給与、福利厚生への待遇	126 人	133 人	21 人	3 人	24 人
	41.0%	43.3%	6.8%	1.0%	7.8%

【図表 3-5 就職先を選択する基準 (全体)】

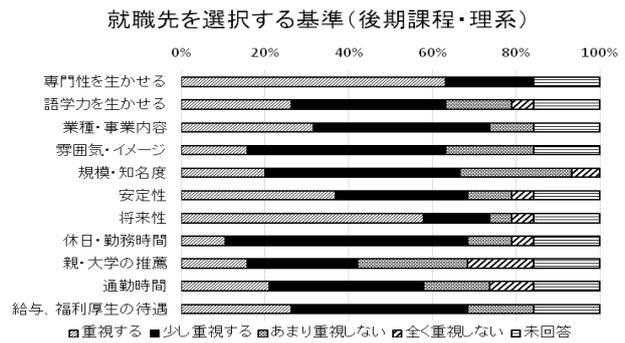
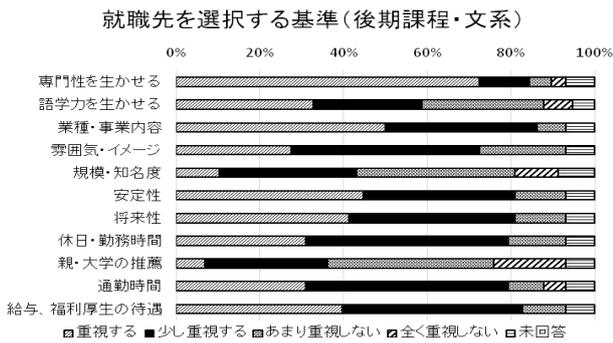
【図表 3-6 就職先を選択する基準 (前期・文系)】



【図表3-7 就職先を選択する基準（前期課程・理系）】【図表3-8 就職先を選択する基準（専門職）】



【図表3-9 就職先を選択する基準（後期課程・文系）】【図表3-10 就職先を選択する基準（後期課程・理系）】



【講評】

・全体として、80%以上の大学院生が重視する項目は「専門性を生かせる」「業種・事業内容」「雰囲気・イメージ」「安定性」「将来性」「給与・福利厚生・待遇」である。「業種・事業内容」(86.3%)が最も高く、続いて「給与・福利厚生・待遇」(84.3%)が高い。また、「親・大学の推薦」(42.7%)が最も重視されていない。

以上